



IV 男声合唱組曲「蛙」

- | | | | |
|-----|---------|----|------|
| I | 桂離宮竹林の夜 | 作詩 | 草野心平 |
| II | 黒い蛙 | 作曲 | 多田武彦 |
| III | 五匹のかえる | 指揮 | 北村協一 |
| IV | 蛇祭り行進 | | |

● 組曲「蛙」について

多田武彦

詩人の草野心平先生のお宅を訪れたとき「蛇祭り行進」の話が出た。先生は「この詩を作曲してくれる人は多いが、あくまでも行進曲であるのに、音楽用語でいう『イン・テンポ』（終始同じテンポ）で書いてくれる人がいない」と言われた。私はその趣旨に沿って書くことにしたが、その節、先生が蛙の詩の中で最も好きだといわれた「黒い蛙」をも作曲することを約束させられた。「黒い蛙」は私の好きな京都的なもの（特に月光の夜のすさまじいばかりの美しさに支えられていたので、組曲の冒頭には「桂離宮竹林の夜」を配し「黒い蛙」とつないだ。三曲目は前二曲と対照的にスケルツォ的な「五匹のかえる」を持って来、青大将という言葉があるので第四曲の「蛇祭り行進」との連繋もうまく行った。

この組曲は昭和44年3月、その年卒業する立命館大学メンネルコールの卒業生が後輩に贈呈するためのものとして作曲を委嘱され出来たものだが「柳河風俗詩」や「中勘助の詩から」「雪明りの路」「雨」などとともに、全国の合唱愛好家によく歌われている。今年度はたまたま西の雄関西学院グリークラブと東の雄慶応義塾ワグネル・ソサィエティ男声合唱団が相呼応してこの「蛙」をとり上げてくださった。何よりもうれしいことである。